2026年度大学院入学試験出題の意図および評価のポイント

秋田公立美術大学大学院のアドミッション・ポリシーを踏まえたうえで、以下のとおり出題した。

1　出題の意図（グループ・ディスカッション）

(1) 修士課程一般選抜（第１期募集）

本学の複合芸術研究科では、「アート」を従来の美術・芸術の枠内に留まり続けるものではなく、人や社会がよりよく生存・交流・持続していくための知と技として多様な領域と結びついていくものであると考えている。

本問題のねらいは、具体的な経済的リソースを前提として、受験生各人が現実の社会状況に関わる専門的知見をどのように動員し、さらには異なる知見・意見をこれからの「アート」の役割・機能として展開・統合していけるのか確認することにあった。

(2) 修士課程一般選抜（第２期募集）

国際社会が培ってきた秩序が大きく揺らぐ現在において、本問題では、まず第一に社会が抱える諸課題に対してグローバルな視点を持ち、それに主体的に向き合おうとする姿勢を有しているか、第二に何が問われているのかを自ら定義し、与えられた状況に応じて創造的に応答する力（レスポンシビリティ）を発揮できるか、第三に他者との意見の差異を起点にして、思考をより発展的に再構築することができるかを問うている。

2　評価のポイント

- 出題文の趣旨や背景を十分に理解しているか
- 論理的かつ創造的な思考力を持っているか
- 自身の専門分野への深い理解があるか
- 異なる意見を持つ他者との対話において、積極性や協調性を発揮し参加者全員の考えを深めることのできる高いコミュニケーション能力があるか